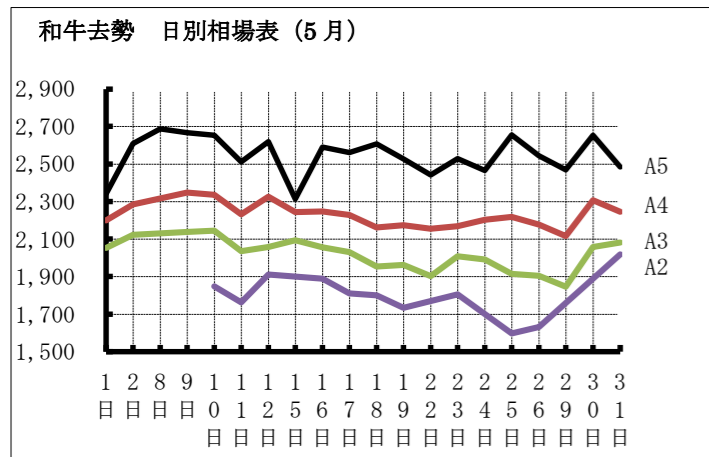


牛肉営業部

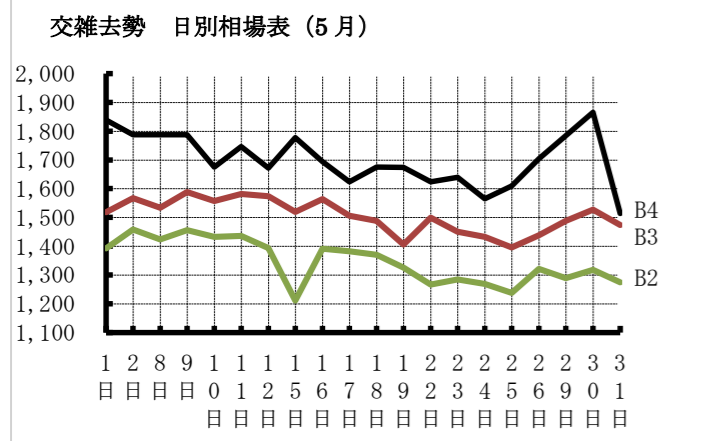
<5月の相場動向>

例年、GW後は消費疲労により節約志向となる傾向があり、今年度も同様に前月を下回る展開となった。5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類に引き下がり、人流が活性化することで需要が高まるのを期待したいところであったが、様々な食品の値上げ、エネルギーコストの上昇、円安などによる消費者の節約志向は継続している。消費意欲の低迷は牛肉需要にとって厳しい状況であり、和牛・交雑・乳牛去勢ともに前年実績を下回る結果となった。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,578円	-34円 98.7%	-64円 97.6%
A4	2,247円	-121円 94.9%	-91円 96.1%
A3	2,028円	-125円 94.2%	-96円 95.5%
A2	1,828円	-125円 93.6%	-94円 95.1%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,685円	-82円 95.4%	-52円 97.0%
B3	1,507円	-102円 93.7%	-4円 99.7%
B2	1,355円	-121円 91.8%	+2円 100.1%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	-	-	-
B2	1,008円	-122円 89.2%	-122円 89.2%

<6月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、4月の輸入量は前年同月比10.3%増の6万7,913tで、うちチルドは2.9%増の2万1,105tと上回った。フローズンは、前年同月比14.1%増の4万6,808tと上回った。

農畜産業振興機構によると5月の牛肉輸入数量は、前年同月比1.6%減の4万5,000t(チルド15.6%減・冷凍9.7%増)、6月は16.8%減の4万8,000t(チルド16.3%減・冷凍17.0%減)で予測している。チルドは需要の低迷や現地価格の高騰により輸入量は減っている。5月のフローズンは前年同月の輸入量が少なかったため、前年を上回るが6月はチルド同様需要の低迷により大幅に下回ると予測している。

輸入牛肉通関量	4月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	8,925	6,963 128.5%
	米国	10,556	10,731 98.4%
	その他	1,624	2,816 57.7%
	合計	21,105	20,510 102.9%
フローズン	豪州	18,131	15,354 118.1%
	米国	16,922	14,600 115.9%
	その他	11,685	11,086 105.4%
	合計	46,808	41,040 114.1%

出典：食肉速報 単位：t

<6月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による6月の出荷予測頭数は、全体で前年比102.9%の9万100頭で、品種別にみると和牛は0.6%増の3万9,700頭、交雑種は7.5%増の2万1,200頭、乳用種は3.3%増の2万7,700頭と予測している。

東京食肉市場の6月のと畜頭数は、6,930頭を予定しています。

<6月の牛枝肉相場見通し>

例年、6月は年間で牛肉需要が最も低迷する時期の一つであり、需要の活性化は期待できない月であるが、さらに様々な物価上昇や円安などにより消費者の節約志向は継続すると考えられ、今年度の4月・5月の傾向から見ても前年を下回る展開が予想される。

訪日外客数について、4月は194万9,100人と200万人に迫る勢いとなっており(前年同月比1,296.7%)、順調に回復傾向にあり、引き続きインバウンド需要の拡大に期待したい。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,400~2,800	B4	1,450~1,650
A4	2,200~2,350	B3	1,250~1,400
A3	1,950~2,150	B2	1,150~1,250
A2	1,900~1,950		
乳牛去勢			
B3	1,000~1,050		
B2	900~950		

豚肉営業部

4月の全国と畜頭数は、前年同月比4.3%減の132万6,032頭。また4月の豚肉通関数量は10万9,685t(前年同月比0.7%増)と前年を上回り、前月比でも58.7%の増加となった。内訳はチルドが3万3,338t(10.7%減)、フローズンは7万6,347t(6.7%増)。

2022-2023年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
4	76,226	10,881	22,232	169,980	77,840	94,930
5	72,433	77,418	22,442	176,959	72,091	70,439
6	73,206	89,288	21,153	192,277	74,366	73,970
7	67,448	83,013	21,249	200,051	67,235	75,239
8	70,579	86,492	20,365	207,966	71,378	78,577
9	72,682	72,520	19,371	204,472	73,540	76,014
10	75,562	75,744	19,698	196,107	75,147	84,109
11	81,124	87,886	18,751	195,556	81,933	88,437
12	79,634	68,853	19,816	185,413	78,413	78,996
1	77,331	74,837	18,538	188,666	78,557	71,584
2	72,899	71,250	19,905	189,121	71,425	70,795
3	81,586	69,027	20,232	189,572	81,112	68,576
4	73,794	109,570	20,573	204,045	73,312	95,096
比	97%	101%	93%	120%	94%	100%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

4月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	16,888	102.3%	デンマーク	12,931	93.3%
カナダ	13,464	74.5%	スペイン	29,029	125.2%
メキシコ	2,975	107.4%	メキシコ	9,253	77.3%
			アメリカ	9,174	164.1%
			カナダ	3,778	106.5%
合計	33,338	89.3%		76,347	106.7%

単位：t

<5月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	71,600	624	622	968
2日	69,900	604	591	1,031
6日	-	587	580	975
9日	69,400	610	604	1,011
10日	67,500	628	618	783
11日	67,200	637	623	842
12日	65,000	658	648	934
平均	68,433/日			935/日

連休中の補充手当なども入り、全体的に締まった需給となったことで相場は上物、中物ともに600円を上回る展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
15日	64,100	660	652	678
16日	65,600	642	628	944
17日	63,900	649	626	604
18日	65,500	647	630	724
19日	62,500	651	627	963
22日	64,500	653	631	605
23日	66,600	647	641	758
平均	64,671/日			754/日

東京では気温が上昇し5月としては異例の暑さとなった。全国と畜頭数はGW明けから落ち着き6万頭減少傾向となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	63,700	690	646	663
25日	62,000	645	640	636
26日	60,100	665	649	960
29日	63,600	688	664	734
30日	64,200	685	673	768
31日	61,600	703	693	620
平均	62,533/日			730/日

全国と畜頭数は6万頭前半の日が続く相場は上昇傾向となった。行楽需要などには一服感がみられるが、相場は上物中物ともに600円を大きく上回り31日には700円を超える展開となった。

<6月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和5年6月の肉豚出荷予測では131万1,000頭(前年比97.9%)と予測している。当市場の6月集荷予定せり頭数は1万5,500頭、1日あたりでは約705頭を見込んでいます。

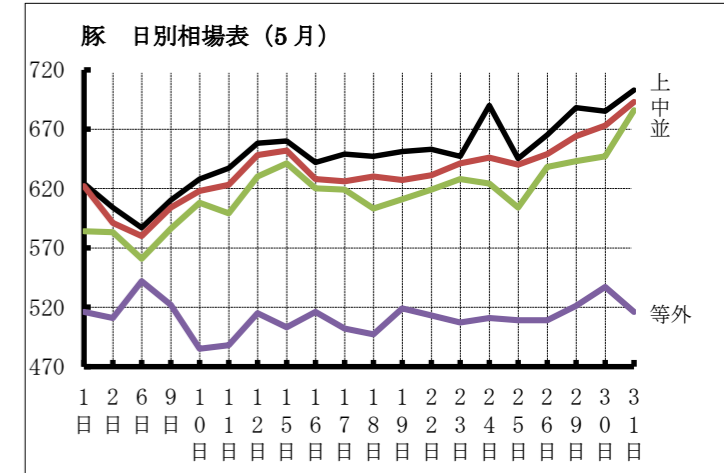
農畜産業振興機構によると6月分の豚肉輸入見込数量は、総量で8万1,900t(同91.7%)、内訳は冷蔵輸入量が3万2,900t(同93.5%)、冷凍輸入量は4万9,000t(同90.6%)と予測している。

冷蔵品輸入量は、北米の現地相場の高止まりや為替の影響により、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。なお、3ヵ月平均では前年同期をわずかに上回ると予測する。

冷凍品輸入量は欧州の現地価格上昇や為替の影響に加え、前年同月の輸入量が多かったこと等から、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。また3ヵ月平均では前年同期をやや下回ると予測する。

6月は需要の端境期で特に大きなイベントも無い事に加え、円安・資源価格上昇による物価高騰で消費者の節約志向は更に強まることで、引き続きスソ物中心の引き合いが強まることが予想される。供給面では関東でも例年より早い梅雨入りとなる見込みで、多湿による餌の食い込み低下に加え、産地では疾病が散発していることから全国頭数は減少傾向となる見込みとなっている。

以上のことから当市場の上物平均価格は680円前後、中物平均価格650円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127